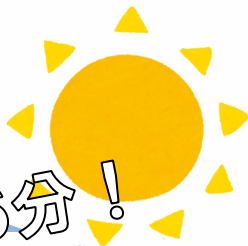


夏だ!

MIYUKIビーチだ!

三の丸ホールから歩いて6分!



発行月：令和5（2023）年7月  
発行者：小田原文化レポーター

### いろいろ小田原とは？

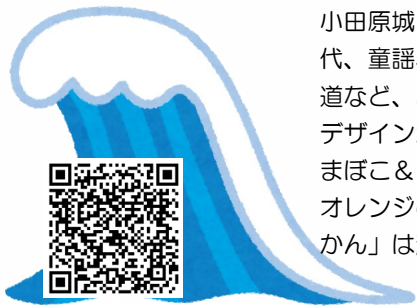
小田原には古くからたくさんの文化が花開き、現在も活気ある活動が続いています。そんな小田原のアレコレを見つめたレポートをもっと多くの方に！という願いを込めて発刊しています。

三の丸ホールから海まで、実は歩いてすぐ！ってご存知でしたか？  
小田原城を背にして歩けばすぐそこに広い海が待っています。夏です！  
小田原と海の物語を楽しみながら、ぜひ海散歩へ！



地図：広目子 作

創業明治8年  
小田原手ぬぐい



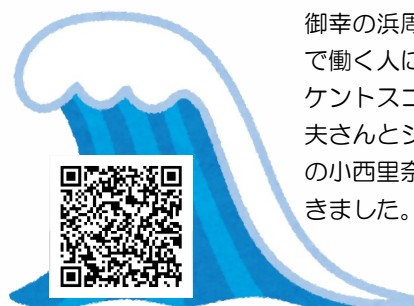
記事はここから

小田原城はもちろん、北條五代、童謡、二宮尊徳、馬車鉄道など、ありそうでなかったデザインがずらり！青の「かまぼこ&おでん&あじ干物」オレンジの「梅&桜&松&みかん」は超キュート。



じんちゃん

海のそばで働く“達人”に聞いた  
夏の小田原の遊び方（全2回）



記事はここから

御幸の浜周辺で遊ぶなら、そこで働く人に聞くのが一番！  
ケントスコヒー店主・平井丈夫さんとジェラート店・龍宮堂の小西里奈さんに楽しみ方を聞きました。



RIE

-レポーターが注目するホール情報をシェア-

## 小田原三の丸ホールから、こんにちは

注目ポイント②：小田原三の丸ホール 2F公演情報スペース



左側に市外、右側に市内の情報を掲示

三の丸ホールだけでなく、近隣市町村～各地の情報が多数掲示され、ひとつひとつ手の込んだ作品のように並んで圧巻！自分の情報収集だけでは知り得なかった、好きな音楽家・俳優の公演。機会があれば観たいと思っていた名舞台や美術展。それらを見て・知ることができ、ちょっとした旅行気分も味わえるスポット！通りかかった際には、ぜひお立ち寄りになってみてください。

小田原文化レポート関連記事！

「三の丸ホールのおすすめスポット」  
レポーター：わたっち



### 小田原三の丸ホール

小田原市本町1-7-50

開館時間：9～21時 ※短縮営業中(令和5年7月現在)

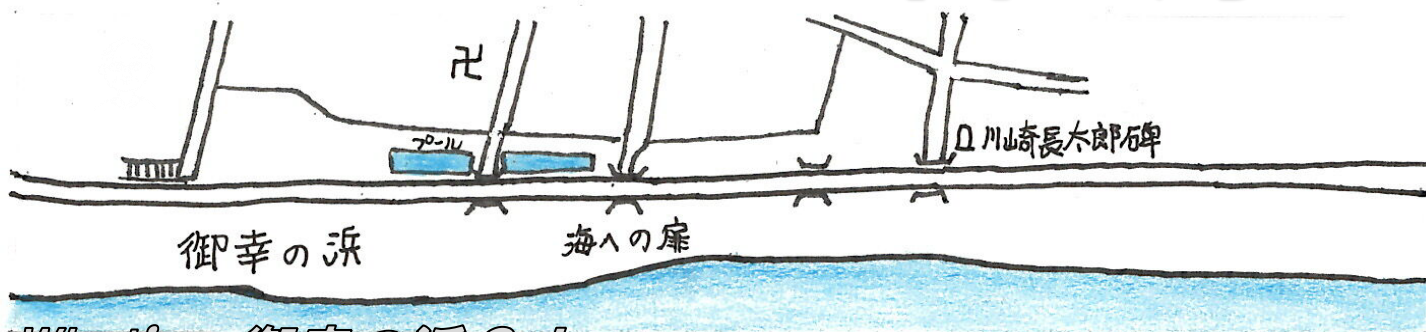
休館日：第1・3月曜日・年末年始(祝日の場合は翌日以降の最初の平日)

ホールの最新情報はここから！



# トンネルを抜けるとそこは・・・

# 一面の海!!



## What's 御幸の浜?!

明治6（1873）年8月、明治天皇が箱根宮ノ下温泉へ行幸の際に、近くの海岸で地引網漁を見学したことを記念し、「御幸の浜」と名付けられました。

※「御幸」とは、天皇が居所から外出することを言います（行幸＝御幸）。

御幸の浜の範囲は、早川河口から新川までの「荒久海岸」と本町3丁目付近から山王川までの「袖ヶ浜海岸」との間の450m程度といわれています。※御幸の浜は海水浴場です。遊泳の際はルールを守り、楽しく過ごしましょう。

### 荒久の赤い灯台



記事はここから

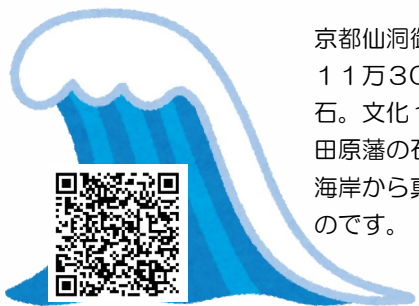
たったひとつの赤い灯台が、酒匂川源流から今の小田原の海にいたる歴史を語っている。そこに小さな赤い灯台があるだけで、この広い海岸も意味を持つ。

灯台の小さき程に夏の海。



ゆきぐま

### 小田原海岸から運ばれた一升石



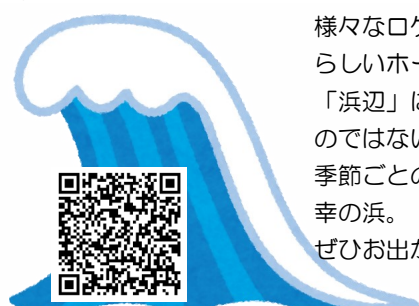
記事はここから

京都仙洞御所の南池の畔を飾る約11万3000個の平らな楕円の石。文化14（1817）年に、小田原藩の石数と同じ数を小田原の海岸から真綿に包んで運ばれたものです。



押切のリュウ

### 海と三の丸ホール



記事はここから

様々なロケーションをもった素晴らしいホールがある中、直ぐに「浜辺」に行けるホールは珍しいのではないのでしょうか？

季節ごとの表情を見せてくれる御幸の浜。

ぜひお出かけください。



わたっち

Pick Up

小さな異世界へと続く

「海への扉」

国道1号線を背に、なりわい交流館の左角を進み突き当たりの木立まで歩いてみてください。西湘バイパスの下にぽっかり空いたトンネルを晴れた日に覗き込むと、その向こうは目も覚めるような真っ青な海！SNSでも人気のフォトスポット「海への扉」と



呼ばれるこの扉、実は市内を高潮や津波から守る防潮扉なんです。市内沿岸には30以上存在し、裏面の地図エリアだけでも4カ所。天気がいい日だけ開かれている色と光の世界へ、ぜひ旅してみてください。



うっし〜

小田原別邸記録①

そうろうかく

初代内閣総理大臣 伊藤博文別邸『滄浪閣』

明治23（1890）年に、初代内閣総理大臣伊藤博文が小田原町十字（現：小田原市本町）の御幸の浜に面して建てた別邸が「滄浪閣」です。

父・十蔵の隠居所であり、博文自身の居宅でした。

明治28（1895）年に日清戦争が起きると、政府の要人たちが、次々と滄浪閣の博文を訪ねたと云う。明治30（1897）年に博文は、大磯町に新しい「滄浪閣」を建てて小田原を引き払ってしまいました。小田原の滄浪閣は旅館として利用される予定でしたが、明治35（1902）年小田原の海岸を

襲った「小田原大海嘯（大高潮）」によって大破し、残った建物も大正12（1923）年の関東大震災で跡形もなく壊滅してしまいました。

滄浪閣跡地には、伊藤博文の胸像と石碑が残されています。小田原には明治の別邸文化を示す建物が残っているので探してみてください。



広目子